

有田市立病院だより

Vol. 9

平成 25 年 11 月号



他府県と合同の災害訓練!!

◆有田市立病院の理念◆

良質な医療を行い、地域医療に貢献し、利用者から信頼される病院を目指す。

◆基本方針◆

—理念を現実化させるための私達の姿勢—

- 1 患者様の視点に立った医療を行います。
- 2 安全で確実な医療を重視しています。
- 3 医療サービスを重視し、患者様に十分な 情報を提供します。
- 4 他施設との連携を密にし、効率的な医療を行います。
- 5 住民の皆様から喜んでいただくことに働きがいを感じます。

有田市立病院

〒649-0316 有田市宮崎町6番地

TEL.0737-82-2151 (代)

FAX.0737-82-5154

発行：有田市立病院 情報管理・広報委員会

当広報誌へのご意見・ご感想お待ちしております。

診療技術部紹介（薬剤室）

病院の薬剤師が、どんな仕事をしているのかご存知でしょうか？

以前は、調剤を中心とした業務であったため、皆さまにとっては「薬剤師は薬を調合（調剤）する人」というイメージが強いと思いますが、院外処方せん^{（注1）}を発行してからは、外来患者さまの薬の調剤から入院患者さまの薬の調剤・管理・説明などへ業務の内容が大きく様変わりしました。患者さまから見えない縁の下の仕事も数多くあり、紹介される事の少ない病院薬剤師の仕事ですが、医薬品に関するさまざまな業務に責任を負い、医療に貢献できるよう心掛け仕事に励んでいます。最近の当院薬剤師業務（仕事）の一部を紹介します。



注1：院外処方せん

医師は診察すると患者さまの病気に使われる薬の種類・量などを決めます。これを記入したものが「処方せん」です。「院外処方せん」とは、お薬を病院の薬局でもらうのではなく、町の調剤薬局でお薬をもらうための処方せんのことです。

入院された経験のある方はお分かりかと思いますが、薬剤師は病棟で患者さまに薬の説明や飲み方の指導、副作用の確認などを行っています。最近はこちらの仕事に加えて、患者さまが入院の際に持参した薬の確認・管理や、最新の医薬品情報を医師や看護師へ周知するなど、多くの時間を病棟での活動に充てています。また、何種類もの薬を服用している患者さまも多いので、同じ効き目の薬を重ねて飲んでいないか、また、薬と薬がお互いに干渉していないか（相互作用）の確認も行っています。そして、このような相互作用は薬と薬だけではなく、薬と食べ物の間でも起こるので、薬剤師は患者さまが薬を安全に使用できるように、いろいろな面から常に注意・確認を行っています。

他にも、下記の様なことを行っています。

- 入院患者さまの薬の調剤
- 院外処方せんの確認
- 調剤薬局からの問い合わせの対応
- 外来患者さま、入院患者さまの点滴や注射の無菌的な調合・調整（抗がん剤や長期栄養状態が悪い患者さま用の高カロリー輸液など）
- 入院患者さまの点滴や注射を1人分ずつセットして、病棟への払い出し
- 薬剤室や薬剤倉庫、病棟に置いている薬剤の管理および払い出し
- 各種委員会（医療チーム）への参加
- 各種医薬品の情報収集および医師、看護師への情報提供など



薬剤室スタッフ

薬剤師：杉原・溝川・宮本・西田
薬剤師：御前・秦 助手：北口・水谷の8名です。

もう一つの仕事として「チーム医療」への参加があります。医師、看護師、薬剤師や他の医療スタッフがそれぞれの専門性を生かし、チームを組んで患者さまの治療にあたる事です。薬剤師はチームの一員としてより安全で効果的な薬物療法のために、「薬あるところに薬剤師あり」をモットーに、今後も取り組んで行こうと思います。

最後に・・・

「これ、何の薬やったかなあ?」「この薬、大丈夫かなあ?」「これ、いつ飲むかなあ?」「この使い方でええんかなあ?」そんなふうに思ったことはありませんか? 私たちは皆さまのそんな疑問や不安が少しでも解消されるように、薬についてわかりやすく説明をします。薬について相談できるもっとも身近な存在として、どうぞ私たち薬剤師に声をかけてみて下さい。

想定外を想定して、なくそう!!冬の「やけど」

皮膚科医長 吉益隆

秋も深まり冬が近づいてくると、水炊きも美味しくなり、熱燗、温かいお茶、お味噌汁、スープ等、誰もが温かいものを飲みたくもなり、また、足ごたつなどを使用する機会も多くなります。今回は、「やけど」についてお話します。

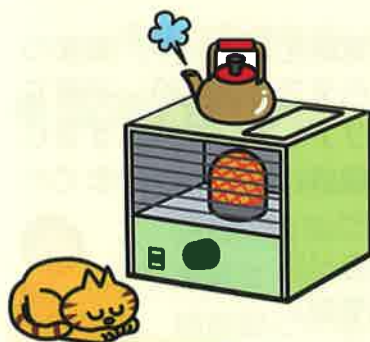
当院皮膚科では、毎年冬になると、春や夏と比べ、「やけど」の患者さんも増える傾向にあります。熱傷（やけど）の程度はⅠ度、Ⅱ度、Ⅲ度と程度によって分かります。Ⅰ度は皮膚が赤くなる、Ⅱ度は水ぶくれができる、Ⅲ度は皮膚が死んだ状態の壊死です。Ⅲ度になれば、皮膚移植の手術をすることもあります。



原因

「やけど」の原因として、熱湯、熱いお茶、味噌汁、コーヒー等をこぼすケースが圧倒的に多いです。沸騰してから口に入れるまで、しばらく冷ますことが、「やけど」の第一の予防かと思われる。さらに、最近では幼児の「やけど」が多発しています。幼児においては、熱い飲み物から十分に距離をとっておくことが大事で、幼児は想定以上に手を伸ばしてくるということを、周りの大人は想定しないとはいけません。これは、どれほど注意しても、注意しすぎることはありません。

「やけど」の原因で次に多いのが、足ごたつや湯たんぽ、ストーブなどによる低温熱傷です。低温熱傷は、高齢者や、糖尿病などにより神経の知覚が鈍くなった人に多くみられます。湯たんぽが原因の「やけど」は、高齢者以外に若い人にも見られます。



最近では少なくなっていますがストーブの上にヤカンを置き、ひっくり返すことによる「やけど」もあります。他に、風呂やシャワーの熱湯による「やけど」もあります。温度調節をきちりに行なう必要があります。また、最近ではオール電化が普及し、ガスを使用しない家庭も多くみられますが、高齢者、特に認知症の方のいる家庭では、火の不始末などによる火事もみられるので、注意が必要です。また、季節に関係なく、仕事で熱湯を扱う人による「やけど」も増加傾向にあります。

受診までに

「やけど」を受傷してから、皮膚科受診までのポイントとして、保冷剤やビニールに包んだ氷などで冷却することが大事です。ほんの赤くなる程度の軽度の「やけど」を除き、水で洗浄するだけではあまり意味がありません。「やけど」は受傷した時点から徐々に進行していきます。Ⅰ度の紅斑からⅡ度の水疱、Ⅲ度の壊死へと時間経過とともに重症度が進みますので皮膚に赤みがある間は冷却が必要となります。



◇当院の現況報告

内科外来について

平成25年10月1日より、内科医師が3名に減少することに伴い、内科外来の診療体制を変更しています。

内科外来が1診制になること、また救急外来、紹介患者様、入院患者様の急変等で、順番どおりに診察できない場合や待ち時間が非常に長くなることが想定されます。誠に勝手なお願いで大変申し訳ありませんが、ご了承いただきますようよろしくお願い申し上げます。

医師確保が出来次第、診療体制を見直しますので、その間、何卒、ご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



内科外来	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
初診・再診	近藤医師	休診	瀬藤医師	休診	山下医師

産婦人科について

皆様ご存じのとおり、当院産婦人科常勤医師の減少に伴い、9月以降の新規分娩を休止させていただいております。分娩の取扱を行うには、365日24時間体制を行わなければなりません。特に産婦人科医師が全国的にも少ない上に、都会への偏在という問題も抱えています。しかし、地域で安心して出産のできる体制を図っていくのも公立病院の役割であります。

当院としても早急に常勤医師を確保し、新規分娩の取扱を再開したいと考えていますので、それまでの間、ご迷惑をお掛けしますがご理解のほど、よろしくお願い申し上げます。

◇産科セミオープンシステム及び産後ケアの導入について

セミオープンシステムとは、周産期医療ネットワーク協議会を活用したシステムで、妊娠32週～34週までの妊婦健診等は当院で行い、お産は分娩のできる病院（和医大附属病院・国保日高総合病院等）やクリニック等でしていただくというシステムで、当院も本年11月から導入しています。

また、今後、当院助産師による助産師外来を行う予定としており、母乳外来や妊婦指導・教室等、助産師による専門性を活かし、妊婦さんやご家族に対するきめ細やかなサービスを提供していきます。（平成26年1月から実施予定）

さらに、産後ケアが今全国的に注目されています。産後ケアとは、核家族化が多い中、実家の両親の高齢化や両親も働いて子育ての様々な相談や手助けがしてもらえなかったり、子育てが合っているのだろうかと精神的に悩んでいるなどの母親と赤ちゃんをケアしていこうとするものであり、安心して育児が行えるよう支援するものであります。利用対象は、生後4ヶ月までの乳児と母親で、赤ちゃん相談や授乳、沐浴指導、乳児の健康状態管理など、利用者のニーズに応えられるよう、体制（日帰り、宿泊ケア、在宅ケアなど）も充実させ支援していく予定としています。（平成26年1月から実施予定）



◇電子カルテ導入のお知らせ

当院では、平成26年1月1日（水）から「電子カルテ」を導入いたします。

導入により紙カルテや伝票が不要になり、受付から会計までの処理が早くなります。また、診察面では患者さまの診療情報をすぐ確認することができ、スムーズな診察が可能になります。

ただし導入当初は、システムトラブルや職員の操作の不慣れ、受付方法の変更などで、診察時間や待ち時間が長くなることが予想されます。医療サービスの向上のため今後とも努めてまいりますので、皆さまにはご迷惑をお掛けしますがご理解のほど、よろしくお願い申し上げます。